

「富士急行線の富士山ビュー特急に乗ろう!!! 山だ! 海だ!」

高 2 脇本 健奨・玉眞 俊弥

◆はじめに

こんにちは。本日は旅行・鉄道研究部の出展にお越しいただきありがとうございます。何回も投稿させていただいている高 2 の脇本と玉眞です。最後までお読みいただけると幸いです。

今回の旅行は日帰りです。夏旅行は 0 泊 3 日じゃないのか、と思われる読者もいらっしゃるかもしれませんが、実は学校側から夏と冬は日帰りにしろと言われてしまったので、今回の旅行は日帰りになりました。

朝新宿を出発し、大月経由で河口湖に行った後、八王子経由で町田に行き、町田からロマンスカーに乗って小田原に行き、小田原で約 3 時間の自由行動の後東海道線車内に再集合して東京に帰ってくる、という行程でした。今回は中 1 の入門旅行も兼ねているため、何か起こらないかと心配でしたが、無事旅行を終えることができました。その旅行について 2 人で綴っていきたいと思います。

8 月 10 日(水) 集合：新宿駅南口改札外に 9 時

新宿 9:30→中央線 3001M 特急かいじ 101 号 甲府行き→大月 10:37

おはようございます。起きたら 7 時半、集合は 9 時。家から集合場所まで 30 分である。ゆっくり準備して家の近くから新宿駅まで行くバスに乗った。乗ったバスの運転手さんが知り合いだったので発車前におしゃべりした。朝からこの人に当たるとは今日は運いいぞと気分が上がった。

終点の新宿駅西口に 8 時 45 分に到着し、南口まで歩いた。8 時 52 分に南口に着いた時には参加者の 9 割方がいた。相変わらず私の集合は遅いのである。

松崎先生がいつも通り 5 分前から点呼を取り参加者にきっぷを配る。どうやら高 2 の部員が 1 人来てないようだった。その部員も 3 分ほど遅れて到着し、参加者が全員揃ったので一気に改札内に入り 9・10 番線ホームへ向かった。

ホームへ行くとかいじ待ちの客がたくさんいたが、同時に SP と思われるいかつい顔してスーツ着た人がいた。どんな要人が乗るのかとドキドキした。

かいじ 101 号になるかいじ 102 号は新宿に 9 時 04 分に到着するはずなのに来ない。結局 10 分ほど遅れて到着した。E257 系 0 番台 M-106 編成だった。どうやら西荻窪駅でお客救護を行った影響で上下線に 10 分ほどの遅れが出ているようだった。

かいじ 102 号は降車終了後に車内清掃をして 9 時 27 分頃乗車した。上下線が遅れているならこの列車も遅れるかなと思っていたが、意外にも定時に発車した。高尾以北に遅れを持ち込みたくないのだろう。

新宿を出ると次は三鷹まで止まらない。早速車内放送が流れる。この列車の指定席はすべて満席とのこと。やはり甲信越地方の需要が多いのだろう。三鷹まで快速を1本も抜かなかつたため、非常にノロノロと走っていた。三鷹を出るとある程度速度を出し、中央線の高架を走り抜けていった。三鷹を出ると立川、八王子、大月の順に止まった。高尾を通過すると平坦な線路から一転、上り勾配になり、カーブやトンネルが増え、山々に入った。それでもE257系は定速を駆使して90km/h以上で走り続けた。八王子を発車してから40分ほどで大月に到着した。

大月 10:48→富士急行線 705レ 特急富士山ビュー特急5号 河口湖行き→河口湖 11:36

大月でJR線から富士急行線に乗り換える。連絡改札口には多くの人が出て、外国人も多く見かけた。やはり人は富士山に惹かれるのだろう。

大月から乗った「富士山ビュー特急」は元JR東海の371系を改造した車両で運転する。371系は「あさぎり」などで小田急新宿に乗り入れていた車両である。3両編成で1号車が指定席、2・3号車が自由席になっていた。僕たちが乗るのは自由席だったので座れないかもしれないと危惧していたが、3号車には結構空席があり、部員全員が座ることができた。

乗車するとすぐ発車し、上大月を通過すると早速上り勾配が始まった。列車は50km/h前後で進み続けた。都留文科大学前に止まると、次は富士山まで止まらない。富士山駅は数年前まで富士吉田駅だったが、気付かぬ間に改称していたようだ。車掌のアナウンスがあり、進行方向左側の車窓から富士山が一番よく見えるところが紹介されたが、生憎雲で見ることができなかった。寿〜三つ峠間は駅間3kmのあいだで100m上るというアナウンスもあった。アナウンスが丁寧で豊富だったが、英語放送は日本人の車掌が日本語読みしていて少々残念だった。

富士山駅に着くと乗客の半分くらいが下車した。富士山駅からは進行方向を変えて富士急ハイランド、河口湖と停車していった。

河口湖に到着後、次の普通列車まで自由行動だった。僕たちは「吉田うどん」というご当地うどんと「信玄餅アイス」を食べた。うどんはとてとてもコシがあっておいしかったし、アイスは信玄餅が入っていてこれもおいしかった。

12時29分発だったので、12時20分に解散した場所に再び集合したが、ほうとうを食べに行つた中3部員が、店が混んでいたようでなかなか来ず、発車2分前に来た。中3を待っていた私は発車30秒前に乗り込んだ。



河口湖 12:29 → 富士急行線 20レ 普通 大月行き → 大月 13:24

大月 13:45 → 中央本線 436M 普通 高尾行き → 高尾 14:21

河口湖からは元 JR 東日本 205 系を改造した 6000 系に乗車した。JR 時代とは異なり、車内の床は木になっていた。快適に大月まで行くことができた。

大月に到着し、富士急側の改札を出た後各自で JR 側の改札に入った。実はここから青春 18 きっぷを使うのである。というのも、最初の特急と富士急行線は団体学割を使用したためだ。

ホームで待っていると、発車 7 分前ぐらいに乗車する列車が入線してきた。特急の通過待ちをする訳でもなく、ただ早く来ただけのような感じだ。

大月を定時に発車し、高尾までの 2 つの駅で特急列車の通過待ちをした。相模湖で通過待ちをした後に発車すると、列車は 10 分近い遅れになっていた。どうやら、抜かず特急がそれぞれ遅れていたようで、この列車にも遅れが響いた。この列車が遅れたおかげで予

定だった中央特快に乗れないことが判明したが、ここから先は次の執筆者にお任せしよう。

高尾 14:44 → 中央線 1402T 中央特快 東京行き → 八王子 14:51
八王子 15:00 → 横浜線 1546K 各駅停車 東神奈川行き → 町田 15:27

立川駅で発生した人身事故の影響により、中央線は遅延していた。そのため、予定よりも 15 分ほど遅れて高尾駅を発車した。八王子駅に到着後、すぐに横浜線に乗り換えた。私たちがなぜこんなにも焦っているのかというと、この後小田急線の特急はこねに乗車する予定だったからだ。

町田駅に到着すると、私たちは小田急線の町田駅へと急いで向かった。JR 線の町田駅から小田急線の町田駅は直接乗り換えをすることができないのだ。特急はこねも先程の富士山ビュー特急と同じように、団体割引を利用するため、一斉に改札を通り抜けなければならなかったのだ。連絡路が意外と長くて間に合わないかもしれないと不安だったが、なんとか列車には間に合った。

町田 15:38→小田急小田原線 0135 レ 特急はこね 35 号 箱根湯本行き→小田原 16:19

車両は LSE だった。鉄研旅行でよく小田急ロマンスカーに乗車することがあるが、LSE に乗車するのは初めてだった。先ほど団体乗車券の手続きをするため走った顧問の M 先生が久しぶりに走ったと非常にテンションが上がっていてとてもおもしろかった。一息ついたかと思いきや、すぐに列車は小田原駅に到着した。小田原駅到着後は自由行動の予定だった。部員のみんなはそれぞれ温泉に入ったり、乗りつぶしをしたりしたようだった。



<協本の自由行動>

私は、18 きっぷの回数の都合上、急ぎよ他の高 2 の 3 人で自由行動をすることになった。私たちはひたすら乗りつぶしをした。

小田原 16:40 → 東海道線 1885E 普通 熱海行き → 熱海 17:03
熱海 17:09 → 東海道線 467M 普通 浜松行き → 沼津 17:31
沼津 17:44 → 御殿場線 2560M 普通 国府津行き → 国府津 19:14
国府津 19:19 → 東海道線 2855Y 快速 小田原行き → 小田原 19:28

小田原駅で解散後、熱海まで乗車し、JR 東海区間に入った。沼津駅に到着後は、初めて御殿場線に乗車した。途中駅で突然大雨が列車を襲った。車内には雨のたたきつける音が鳴り響いていた。そのころ、玉眞氏より「小田急大雨による運転見合わせ。」とのメールが入った。あと一本遅い列車だったら、予定変更になっていたかもしれない。ちょうど列車は松田駅に到着した際、向かい側に小田急の MSE が停車していた。新宿からあさぎりで御殿場線にやってきたのだろう。しかし、車内は電気がついていない。あさぎりも運転を見合わせていた。

その後、私たちは国府津駅で降りて、小田原行きに乗車した。このあとまた折り返すことになるのだが...集合場所が小田原駅なので仕方がない。

<玉眞の自由行動>

私は、まだ乗ったことのない箱根登山鉄道を全線制覇しに行った。

小田原 16:31 → 箱根登山鉄道 7283 レ 各停 箱根湯本行き → 箱根湯本 16:46
箱根湯本 16:52 → 箱根登山鉄道 483 レ 各停 強羅行き → 強羅 17:34
強羅 17:53 → 箱根登山鉄道 494 レ 各停 箱根湯本行き → 箱根湯本 18:30
箱根湯本 18:41 → 箱根登山鉄道 7300 レ 各停 小田原行き → 小田原 18:56

小田原から小田急 1000 形の赤い塗装の列車に乗った。小田原からは坂がきつくなっただが、難なく箱根湯本に着いた。

箱根湯本からはいよいよ箱根登山鉄道の本領発揮だった。箱根湯本を出るといきなり勾配とカーブが急になり、電車は苦勞しながら上っていき、終点の強羅にたどり着いた。

強羅からはモハ 1 形に乗ってまた戻った。これが俗に言う「キックターン」なのだろうかと思った。モハ 1 形は非冷房のため車内の窓が開いていたが、窓からは生暖かい風しか吹き込んでこなかった。来た道をただ戻るのが。急な下り勾配をどんどん進んでいった。

箱根湯本に着くと、温泉に行っていた他の部員と顧問が合流し、僕は 30%引きになっていた駅弁を買い、小田原までの電車の中で食べながら小田原まで戻った。

小田原 19:32 → 上野東京ライン 1936E 普通 籠原行き → 東京 20:58
--

小田原からはただ乗るだけだった。もう旅は終わりに近づく...。グリーン券を購入してゆったりと帰る部員もいた。車内は混雑していたので、私は東京駅まで立つこととなった。横浜駅に着いた際、京急線のホームを見てみると新型車両の新 1000 形 1800 番台が停車していて一人喜んでた。その後、川崎・品川・新橋と停車して、無事東京に帰ってきた。その後、改札を出て、21 時ごろ解散した。

これから日をまたぐ旅行が一年に一度しか行えなくなってしまうのは残念だが、このような日帰り旅行も楽しい。普段乗れない列車にも乗ることができた。次の冬旅行もきっと楽しい旅行となるだろう。

私はそのあと家に帰り、お風呂に入って寝てしまった。おやすみなさい。

最後までお読みいただきありがとうございます。